



# 阿久比町 と半田市

合併推進の人たちは、「日常生活圏の拡大」「少子高齢化」「効率的な財政運営」を理由にあげます。政府の言い分とまったく同じですが、合併がこうした問題の解決にならず、合併がまとまらない例が全国で続出しています。

## 【効率的財政】

というのが職員減らしてサービス低下。役所は遠くに、周辺部はさびれる。

合併推進の人たちは、「効率的財政運営」ができるからと言います。しかし、効率的とはどういうことでしょうか。単に市町村を大きくして財源をつくるというだけでは、確かに庁舎は一つでよく、職員も議員も減らせるとなりますが、住民の声が行政に届きにくくなります。阿久比・半田合併を考えると、人口規模の大きな半田市に権限が流れ、阿久比の住民にとっては、役所は遠くなり、中心部優先で周辺部はおろそかにされかねません。地域のことをよく知っている身近な職員がきめ細かな仕事をするこそ大切ではないでしょうか。

## 【広域行政】

「多様な住民ニーズ」も、きめ細かい行政サービスがあつてこそ。

「少子高齢化に対応するため」とか、「自治体の規模を拡大し、専門職員を配置する」と言いますが、たとえ専門的職員の配置ができて、一方で、合併で自治体職員が大幅に減ります。介護や福祉の専門職員を配置できるといっても、職員全体は大幅に減るわけですから、せっかくの専門職員も、遠くの役所にいるというだけで、住民の身近な存在ではなくなりません。また、合併そのものには、「少子高齢化」対策がすすむなどの保障もありません。専門的仕事は、現在多くの自治体では、「広域行政」や県の出先機関を使うなど工夫して対応しており、「専門職がいなくて必要な行政ができない」という例はありません。まして「広域から外される」などといったことは根拠がありません。

# 合併でほんとうに住民のくらしはよくなるのでしょうか……

## 【財政の見通しは】

半田の多額の借金など、合併すれば財政はいっそうきびしくなります。

合併して市が大きくなれば支出も大きくなります。また、合併すれば、財政が集中されますが、財源が増えるわけではありません。逆に半田市は多大な借金をかかえており、合併すればこの影響をまともに受けることとなります。合併による新市建設計画にもとづいて、市役所など大きな施設をつくり、大規模な投資がされれば、それだけ市債（借金）が増えます。しかも、半田市の大型開発は目白押しで、新市計画の多くが半田中心とならざるを得ません。半田市は不交付団体となり、地方交付税がもらえません。もし合併すれば、現在阿久比が受けている分は合併特例で維持されても、合併特例がなくなるおおよそ10年後にはゼロになります。

## 【阿久比町の財政は】

単独でやっていける要件を十分備えています。

阿久比町の財政力は、0・7で、これは町村の全国平均0・33を大きく上回り、市の全国平均0・67も上回ります（平成13年度の数字）。また、地方債（借金）返済額が一般財源にしろめる割合は、知多半島南部2市4町の中でもっとも少なくなっています。阿久比町は、自然環境を大切に、福祉や教育を充実し、住民と共同して独自のいきいきとしたまちづくりをめざす要件を十分に備えています。合併で、住民負担も増えます。法人税率は阿久比町は12・3で、半田市は14・5です。また、農地の宅地並み課税で農家は大幅に負担が増えます。

